

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200495		
法人名	ラブネットサービス株式会社		
事業所名	グループホームとんがりぼうし		
所在地	倉敷市玉島柏島688-1		
自己評価作成日	令和 元年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200495-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	令和1年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で寄り添い、笑って暮らそう」をモットーに、「その人らしく笑顔で」生活できるよう日々のケアを行なっています。今年度は生活全般の見直し、充実に努めました。まずは食事、感染対策として免疫面からも見直し、発酵食品等を意識的に追加するようにしました。また安全面については、事故リスクの高い浴室内を見直し、手すりの増設と滑り止めマットの追加を行いました。その他にも、ご入居者様の下肢筋力維持・向上を目指し、今まで行っていた体操・下肢運動に加え、積極的な散歩を追加、医療連携についてはご入居者様の体調管理だけでなく、職員への研修についても協力依頼しました。社会参加・社会資源については、第2回作品展開催、近隣のボランティア依頼、特に近隣の大学にも協力が得られアニマルセラピーを行うことが決まったことは大きな喜びでした。1つ1つは小さな変化ですがご入居者様とご家族様の笑顔に繋がるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1年に1回ではあるが、「GHとんがりぼうし」に訪問する度に、いろいろな事が進化し続けている事に驚かされる。どこにこんなエネルギーが潜んでいるのだろうと不思議に思う。外部評価で提案した事項も次に訪問するとちゃんと実践している。前向き、意欲的、ポジティブ等々いろんな表現が浮かぶ。来年から社長に就任するという(株)ラブネットサービスの専務がとても懐の大きい人で、このホームの良い所は職員達に「自由を与えてくれるところ」と管理者が語ってくれた。改善すべきところは怯まず意見や提案をして、それを専務がちゃんと実行してくれる。この相互の信頼関係が大きな原動力となっているのだろう。利用者も男性1名、女性8名の構成は昨年と変わらず、出来る事は出来る範囲で本人にしてみらいつつ利用者本位の暮らしを営んでいる。アニマルセラピーの次はどんな挑戦をするのか、次回の訪問を楽しみにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は入居者も職員も笑顔で過ごせるホームになるよう、職員で思いを話し合い決めたものである。現在は職員の目につく場所に掲示している。	「笑顔で寄り添い、笑って暮らそう」の理念を職員間で時々確認をし合いながら、職員に笑顔があれば利用者も笑顔になる事を身をもって実践している。利用者の笑顔や楽しそうな様子から目配り・気配り・心配りをしながら職員が日々ケアしている事が実感出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域のお祭りの際は子供会のお神輿がにぎやかに寄ってくれる。運営推進会議には町内会長、民生委員など参加頂き、地域の掃除等行事にも参加している。今は地域のボランティアグループの訪問もあり楽しみにしている。	町内会長は交代制の為、地域との交流や協力も変化はあるが、町内清掃に参加したり、今年初めて総会にも参加する等、積極的に地域とのつながりを持っている。玉島交流センターで作品展を2.5日開催、100人弱の来所があり、地域交流も幅広く行っている。	とんがりぼうし新聞やリビング、居室に展示してある作品を見ても、協働で制作している素晴らしい作品群だ。利用者も達成感が得られ、地域の人にも効果的な広報となるので、今後も3回目、4回目と継続して地域交流の一環として下さい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校あてにベルマーク集めに協力。地域のボランティアグループに定期的な参加を依頼し、なじみの関係を築いている。また、今年も2回目となる作品展を地域の交流センターにて開催、多くの方に見て頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム周辺の地理、地域行事への参加、非常災害時の協力体制に役立っている。又、参加している他施設の取り組み等情報交換でき、当施設のサービス向上に結びついている。会議議事録は家族に送付している。	年6回開催している運営推進会議には市の担当者、包括、町内会長等地域住民代表、他GH職員、家族等の参加があり、活動報告、情報交換、意見交換等をして有意義な話し合いをしている。今年から議事録を家族に送付する他、玄関に置いて情報開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者の参加があり、生活保護受給者の相談事も遠慮なく相談できている。介護保険の担当者には変更時等相談・指導してもらっており、良い関係が築けている。	日頃のホームの活動状況は運営推進会議等でよく理解してもらっており、その都度相談もしている。生活保護の人が半数近くいるので毎月書類の提出の為、担当者とは連絡を取り合う事が多く、話し合う機会もある。今年は実施指導もあり助言や指導をいただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全面に配慮し、センサーマット、玄関センサーを使用する等自然な暮らしを支えるようにしている。身体拘束防止委員会を定期的で開催している。	日中は安全対策の為、玄関の施錠はしているが、身体拘束をするような事例はない。「帰ります」の訴えがあれば、気持ちを共有・寄り添い、相手の話をよく聞いて記録し職員間で共有しており、身体拘束、言葉による抑止等について職員はよく認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修には参加するよう努めている。研修参加後にはスタッフ会議で報告し情報共有している。ホーム内でも研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用している入居者様が複数あり、後見人の方に報告・相談行っている。また、生活保護受給者の制度使用についても市の担当者と検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、重度化した際の対応、利用料等十分説明を行い、同意を得るようにしている。その際、不安や疑問はないか確認、随時対応する旨説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に近況報告し、積極的に意見交換を行なっている。年2回家族会を開催し、参加できなかった家族には記録を送付している。また、毎月家族へ担当者のコメントを送付している。その際、行事や日頃の会話、エピソードも添えるようにしている。	毎月発行している「とんがりぼうし新聞」は新バージョンとなり、写真満載で生活の様子がよく分かり、家族にも喜ばれているし、個々の家族に宛てた便りの中でも近況報告をしている。家族会にも半数近い家族の参加があり、意見や要望を言いやすい雰囲気作りや意見箱を設置して運営に活かすようにしている。	殆どのホームが玄関に意見箱を設置しているが、形式的な物に留まり実際に意見が入る事は無いに等しいと聞く。例えば、こちらから〇〇に対してどう思うか？等、答えやすい質問をして意見や要望を家族から引き出す工夫も欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気付き、工夫できること等を職員が気兼ねなく提案できる雰囲気づくりをしている。申し送りノートの活用やスタッフ会議にて意見交換、急な対応についても周知できるようにしている。スタッフ会議へは専務も参加している。	申し送りノートを活用して情報共有をする他、「自由を与えてくれる」と職員が言うように、毎月スタッフ会議に専務が参加し、職員の提案を聞いて浴槽の手すりを増やしたり、処遇改善をしてくれる等、働きやすい環境作り、意見や要望が実現しやすい体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	専務がスタッフ会議に参加し実情を把握、相談にも応じている。今年は専務や相談役に協力してもらい、職員の個人面接を実施。個人の抱える「働きにくさ」についても話し合った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修に職員が参加できるよう努めている。ホーム内の研修も外部から講師を招いたり、外部研修の報告等行なっている。資格取得も積極的に勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業者連絡会に加入し、研修に積極的に参加している。「玉島の多職種連携の場」にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で家族と本人に会い、生活歴、生活状況等を把握し、要望、疑問点等話し合う機会をつくっている。入所後も相談し易い環境をつくる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや不安に寄り添い、施設としてどのような対応ができるか話し合っておく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームで出来る事、出来ない事を説明している。希望者にはホームの見学やお試しも行っている。相談の内容により、他のサービス利用を提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来ること、好きなこと、得意なことを探し、一緒に作業したり、任せている。洗濯たたみ、ぬりえ、壁絵づくり等。本人の自信や充実感に繋がるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告し情報共有している。また、家族会、運営推進会議への参加、入居者様の検査等での受診付き添いや行事等への参加等可能な方にはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人との面会、外出支援も行っている。電話、手紙等の連絡を取り持ったり、つながりが途切れないよう努めている。菩提寺の僧侶が年2回訪れる方や、親戚の方が日本中から、海外からも面会に来る入居者もいる。	日頃から家族の面会が多く、家族に恵まれている人が多い。多い人では親戚一同十数名が面会に来る事もあると聞いた。利用者同士が親戚関係の人もいて、顔馴染みの関係がここでも継続出来ているし、職員と利用者もすでに顔馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に相談、話を聞く時間をつくったり、利用者間関係が円滑になるようレクレーションや作業を通じ働きかけをしている。反対に相性の合わない際は席替え等の工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合でも、生活環境、支援の内容、注意点等情報提供し連携をとる。また、家族の悩みや不安に寄り添い、相談にのることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から相談できる時間を設け、本人の希望から困りごと、テレビや家族の話等なんでも気軽に話が出来る機会をつくるよう努めている。また、入居者同士が上手くコミュニケーションがとれない場面では居室に誘い話を聴く等の対応をすることもある。	自分らしく暮らしたい、出来る事は自分でしたい、死ぬまで自分の足で歩きたい等々、利用者のそれぞれの思いや意向をしっかり受け止め、プランに挙げて日々のケアにつなげている。そして、利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしており、居室でゆっくり相対して話をし本音を引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境は本人、家族から聞き取りしている。可能なら自宅訪問する。利用していたサービスについては前事業所、病院等に情報提供依頼する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムを把握、尊重し、無理なく、その人らしく過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常の関わりのなかで、家族には面会時や電話連絡時等に要望や意見を聞いている。医師には往診時に注意事項等確認している。職員にも申し送りノートや会議で意見を出し合い現状に即した計画を立てている。	本人・家族の思いや意向をよく聞いて、理念にもあるように笑顔で笑って暮らせる生活の実現に向けて、職員間でよく話し合いケアプランを作成している。ADL等を記入したフェイスシートを半年毎に更新し、モニタリングを重ねて状態をよく把握し、自立支援に重点を置いたプランになっていると思う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、本人の表情や言葉を重視し、生活の様子を記録し、申し送りノートを活用する等、情報を共有、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況に応じ、買い物、ドライブ、散歩、必要な支援は柔軟に個別対応している。一人ひとりの満足を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、運営推進会議開催しており、近所で行なわれる行事の情報や災害時に協力頂ける可能性が広がった。地域のボランティアグループの参加、特に今年から近隣の大学の協力もあり、アニマルセラピーの導入開始できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望をきき、かかりつけ医を決めている。内科以外の受診や通院は無理のない範囲で家族に協力して頂いている。また近くの訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、より細かな健康チェックが出来るようになった。	玉島協同病院と医療連携をしている他、訪問看護とも24時間体制で医療連携をしているので、いつでも相談でき、緊急時には訪問してくれるので安心である。また、口腔衛生管理加算も取っているため歯科医より職員が指導してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の状態観察を常に心がけ、協力医療機関に報告、相談し適切に、受診、看護を受けることができている。また、現在は近くの訪問看護ステーションと医療連携体制を整え、24時間対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェースシート、ADL等情報提供し、入院中は職員が見舞い、家族とも相談しながら退院支援している。また、退院前には病院職員と情報交換しスムーズにホームの生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から重度化した場合のことや、終末期のことを話題にし、当ホームで出来ること、出来ないことを説明している。重度化した際には本人・家族の意向を随時確認しながら担当医等と連携し支援している。	ホームの方針で利用者の受け入れを比較的軽度の人を中心としている為、重度化して寝たきりになった場合には、人員体制の面からもホームでの支援は難しいが、出来る範囲で支援はしていくつもりである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救命講習Ⅰの講習を受講。定期的に応急処置や初期対応の訓練をしている。AED設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議、家族会でも話し合い、協力体制を築いている。又、中学校区の防災を考える会に参加し情報収集行っている。非常時の備蓄も進行中。	倉敷市が貸し出している「緊急告知FMラジオ」をリビングに置いて有効に利用している。毎年防災の日に非常食・賞味期限のチェックを行っており、電灯や水等の備蓄も検討中との事。AEDも玄関に設置しており、夏には消防署員から救命救急講習を受けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活のなかで築いてきた習慣やこだわりを尊重し、対応している。入居時の「個人情報に関する承諾書」を頂き、作品展等入居時想定外だった行事等あった場合はその都度、確認している。トイレは各居室にありプライバシーへの配慮行っている。	これまでの生活習慣から一晩中テレビをつけている人がいても、出来る限り本人の習慣を大事にしている。更衣やトイレ介助時の羞恥心やプライバシーに関しては居室にトイレや洗面所があるので個々への配慮が出来ており、言葉遣いや声の大きさにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族等から聞き取った生活履歴を参考に普段の会話等から複数の選択枝を提案し自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床にはじまり就寝までその方の暮らしのペースを大切に、個人のリズムに合わせた支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際の洋服選び、整髪、化粧品等習慣にあった支援をしている。定期的な訪問美容師も利用できるが、男性は床屋を希望する方が多く、支援行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を栄養(免疫)と楽しみの面から重視。誕生日は食べたい物を、行事や外出時には外食を楽しんでいる。野菜の大半は減農、有機栽培に取り組んでいる業者から購入。食事は出来るだけ自力で出来るよう、必要に応じ軽い食器使用など工夫している。	食事は一番楽しみな時間であり、「ご飯が一番楽しみじゃ」と皆の顔がほころぶ。刻みの人もいるが、全員普通食で自分の箸で完食。職員と一緒に同じテーブルで仲良く食べている。職員手作りのおやつも美味しく頂いた。冬場は特に感染症予防の面からも色々考えてヤクルトを1本から2本にしたそうだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、毎食の食事量を一覧表を使いチェックしている。検食簿を使い食材やメニューが偏らないように工夫している。普段の会話や残食より、各人の好みを把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ、週に1度訪問歯科を利用し、口腔状態の把握、口腔ケアの方法等を指導受けている。日に3回、自立の方は声かけ、出来ない方は出来ない部分を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し定期的な声かけにより、トイレで排泄できるよう支援している。立位が不可の利用者は本人希望時以外は安楽の為、ベッド上でパット交換している。リハビリパンツ、パットは本人の排泄状況を見ながら選んでいる。	排泄が自立で布パンツで過ごしている人は1名。他の人はリハビリパンツ又はパット併用、夜紙おしめ2名という排泄状況。各部屋にトイレがあるので、個々の排泄リズムを見ながら適宜声かけ、誘導して自立支援につなげているが、転倒防止対策としてセンサーマットを設置している人もいて安全にも留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルト、牛乳を使った飲み物を、週に2回程度、は乳酸菌飲料を提供。食事は野菜を多く摂れるよう努めている。毎日のビデオ体操とスクワット等の下肢訓練を行ない、散歩も出来るだけ行っている。頑固な便秘の方は朝一にコップ一杯の水を飲むよう声をかけたり、必要に応じ医師とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に考慮しつつ、お湯の温度や湯船に浸かる時間など出来るだけ希望に沿うようにしている。拒否の強い時には清拭や足浴、翌日に変更したりしている。安全確保の為、今年更に手すりを増設、滑り止めマット追加等行った。	利用者が安全に入浴出来るように改善を行い、ゆっくり入浴タイムを楽しめるように配慮している。車椅子の人はシャワー浴、足浴で対応しているが、殆どの人は湯船に浸かる事が出来る。午前中に声かけてダメなら午後、それでも拒否があれば日を変えてと、本人の気持ちに合わせて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や生活リズムに合わせて休息してもらっている。午睡したり、日中活動も個人の体調を配慮している。夜間眠れない人は日中できるだけレクや作業に誘い、夜ぐっすり眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人の薬ケースに保管し、いつでも確認出来るようにしている。変更があった場合は業務日誌、生活記録表に記載し、飲み方、いつから変更になったのか等わかるようにしている。変更時など薬剤師に副作用等の問い合わせを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人ひとりの好きな事、得意な事、笑顔になれる事、を一緒に探し、達成感、喜びを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、定期的な郵便局、受診等家族の協力も得ながら支援している。年5回程度、初詣・お雛見学・お花見・ゲームセンター・買い物等行っている。2回目の作品展では都合のつく家族と一緒にみてもらった。個人的な外出時は車への乗降介助等できる範囲で支援している。	記録や写真から、ドライブがてら桜を見に、笠岡ベイファームへコスモス見学、マルナカへ買い物に、作品展見学等々、外出を楽しんでいる様子が確認出来る。軽度で元気な人は自分の用事で毎月職員と外出する等、その人の思いを優先した個別外出支援をしたり、日常的に散歩や日光浴等をして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と相談し、お小遣い程度のお金を自分で持って、買い物の際自分で支払われる方もある。他の方は立替金で買い物し、本人が満足できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等もへの電話や伝言(難聴の為電話が困難な場合など)はいつでもできる。手紙、ハガキの記入、投函等希望時には行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールに季節の飾りや花、植物等を飾り、居心地のよい空間を入居者と一緒に作っている。日にちがわかるよう手作りの日めくりや、大きな1ヶ月分のカレンダーを設置している。又、季節にあった壁画(塗絵・ちぎり絵・クラフト等)や個人作品を作成し飾っている。	午前中はリビングで皆で楽しく過ごし、昼食後は三三五五に自室に戻りお昼寝等してゆっくり過ごし、三時のおやつ時間にリビングへ集合。そんな流れが自然と出来ている。湿度・温度に注意をして、特に湿度は50%程度を目指し、加湿器を3台リビングで使用して過ごしやすい環境整備をしている。	いつも明るいリビングが今年はアニマルセラピーの導入で更に元気づいて皆が喜んだと聞いた。利用者の為にと、いろいろな事に挑戦し続ける姿勢はとても良いと思う。これからもどんどん企画や発案して頑張ってください。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお気に入り、落ち着ける場所があり、自由に過ごせるようにしている。自分の席が居室より落ち着く人、ソファや廊下の椅子で日向ぼっこする人など、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参した家具を設置している方、仏壇、位牌を置く方、家族の描いた絵や写真等本人と家族の好きなものになっている。また、伝い歩きがし易いよう動線を考え安全面にも配慮している。	自宅を引き払い終の棲家になっている人の居室は、そこが我が家になっているし、自分でレイアウトし生活感が溢れている。押し入れの中にまで飾った自作の作品を見せてくれた人もいた。どの部屋も家族の写真を飾り、お気に入りの小物やぬいぐるみをいっぱい置く等して賑やかで明るい雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名札、花飾り(個別)をつけ、自分の部屋がわかる工夫をしている。廊下には手すり、玄関には靴が履き易いよう椅子を設置している。必要に応じ、居室内トイレなどに案内札を付けている。		